

# 会派研修会実施報告書

会派の研修における結果について、下記のとおり報告します。

令和4年5月20日

光市議会議長 中本 和行 様

光市議会 会派「こう志会」

代表 萬谷 竹彦

議員 笹井 琢

議員 中村 讓

議員 西村慎太郎

## 記

- 1 研修日時 令和4年4月20日（水） 10時 ～ 11時30分
- 2 研修場所 光市議会 第2委員会室
- 3 研修テーマ 議会が取り組むSDGsとファシリテーション  
～岡山県美咲町議会の事例～
- 4 講師 九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授  
かるべ たかゆき  
加留部 貴行
- 5 研修結果 別紙のとおり

日 時	令和4年4月20日（水）10時～11時30分	
場 所	光市議会 第2委員会室	
テーマ	議会が取り組むSDGsとファシリテーション ～岡山県美咲町議会の事例～	
講 師	九州大学大学院 統合新領域学府 客員准教授 加留部 貴行	

### 研修の目的

- ・議論を行う上で必須であるファシリテーションスキルの向上。

### 研修内容

#### 1 美咲町議会と「SDGs」

- ・立候補者数の減少が続き、議会自体の持続可能化について苦慮している中での取り組み。
- ・町議会と美作大学（津山市）でSDGsパートナーシップ包括協定を締結した。
- ・毎年町職員3名を「早稲田大学マニフェスト研究会」に派遣。10年目で計30名。



#### 2 美咲町議会と「ファシリテーション」

- ・議会報告会における報告と質疑応答のバランスは50：50がよい。
- ・特定テーマの設定は、欲しい・知りたい・確認したいことを起点にする。
- ・参加者が参加意識を持つのは、一言発言するか、紙に書いて出したとき。
- ・ワールドカフェ方式の導入をお勧めする。（事例：熊本県庁・福岡市水道局）  
→小テーブルで議論し、参加者が入れ替わる。→テーブル毎に発表する。  
（意見質問方式では、他の参加者の時間が奪われる。）
- ・議会報告会で出た意見について、その後の状況報告が重要。

#### 3 多様性と向き合える地域へ

- ・正解を求めるのではなく、対話による納得率の向上を図る。
- ・対話を通じて「まぜる」 市議会報告会に中高生を混ぜて活性化した事例あり。
- ・市職員同士でも話をしていそうで話していない。世代を超えた対話が有効。

### 質疑応答 その他

- 議員の議論にあたっては5W1Hの不足が多いが、どういった手法が有効か？  
→KJ法やブレインストーミング法もあるが、まずは試してみることから始まる。
- 地域の会合で住民に集まって頂くために心がけることは？  
→チラシだけではダメ。声をかけないと動かない。楽しい事を誰から頼むかが重要。
- 本研修会には光市議会議員10名の参加があった。
- 加留部貴行先生は、小学校入学から6年の途中まで光市室積に居住されていた。

### 所感と光市政への反映

- ・効率的かつ円滑に議論を進める上で、学んだ手法をモニターとの意見交換会や市議会報告会などから実践し、より良い議会運営に繋げたい。
- ・議員や執行部どちらかからの一方的なやり取りではなく、議員と関係部局の議論においてもワールドカフェなどを駆使してより建設的な市政運営に資したい。